

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)	◎	一般レストラン（統括）	・全く同じではないが、人の動きがある程度年間で決まっており、人の動きが活発化する時期の後に新型コロナウイルスの感染が拡大した前年の周期と今年の周期が似ているため、今後下半期も前年度同様の周期であれば、11～12月は人の流れや動きが活発化し、景気が上向きになるとみている。
	◎	住宅販売会社（営業）	・ここ2か月で、今進めている商談の結果が全て出るとみている。
	○	商店街（代表者）	・商店への補助にしてもその場限りの印象が拭えない。もっと大局的な政策をしなければたちごっこの感じがするが、少なくとも2～3か月後には、今よりは多くの年代にワクチン接種が行き渡るはずだと期待している。
	○	コンビニ（店舗管理）	・現在が最悪だと考えるので、今よりは良くなるしかない。
	○	自動車備品販売店（役員）	・ワクチン接種が進むことで、様々な規制が緩和されて人流が増え、消費も増えるという予測は誰でもできるが、次なる感染拡大も否定できない状況であり、流動的だと考える。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルス対策による効果で新規感染者数が減少し、人々の行動範囲が拡大してきたら消費意欲も回復してくると考えているが、直近の2～3か月での早期回復は期待できないと捉えている。早くて年末か年明け頃から対策の効果が出てきて、順調に事態が収束したとしても、本格的に回復してくるのは来春頃になるのではないかとみている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・10～11月は県外から20名以上の予約があり、前年と比べ2倍以上受注しているが、新型コロナウイルスの感染状況次第で延期やキャンセルがあるとみている。
	○	都市型ホテル（役員）	・ワクチン接種が進み、新規感染者数が減少することにより、宿泊予約は減少から増加に転じるとみている。
	○	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除され、ワクチンの接種者が増えてくれば、少しずつ回復傾向になるとみている。
	○	通信会社（営業担当）	・毎年恒例の新機種発表の時期であり、その販売が見込める。
	○	美容室（経営者）	・ワクチンの2回接種がほぼ完了すれば、トンネルの出口もみえてくる。
	○	住宅販売会社（従業員）	・ワクチン接種が普及することで、客に変化が現れると考える。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・報道等の影響により来客数が多少減ってきているように感じる。一方で、お盆等で来られない遠方の家族へのギフト系商材が増えている。それで少しカバーできており、この状況がしばらく続くのではないかとみている。
	□	百貨店（売場主任）	・ワクチンの3回目接種が現実的となり、状況の改善は見込めない。しばらくは外出を控える動きが続くため、厳しい状況が続くと見込んでいる。
	□	百貨店（販売担当）	・当面現状の低空飛行が続くとみているが、現状が底で、これ以上の悪化はしないと考える。しかし、需要の拡大には、まず新型コロナウイルスの感染者数の減少など目に見える変化があり、旅行などに行こうという心理の回復が必要である。新型コロナウイルスの影響次第ではあるが、年末頃には少し拡大を期待している。9月以降は期待を込め、攻めの態勢で臨む予定である。
	□	スーパー（店長）	・ワクチン接種が完了するまでは新型コロナウイルスの影響を受け続けるとみている。短期的には現状の景況感から変動はないと考える。
	□	コンビニ（経営者）	・しばらくは変わらないと考える。
	□	コンビニ（営業）	・ワクチンの接種状況やワクチン接種者が感染した場合の症状など、安心できる情報がマスコミから提供されれば、状況が少し緩和すると考える。
	□	コンビニ（営業）	・新型コロナウイルスの影響により、消費動向の回復に見通しが立たない。
	□	家電量販店（店長）	・目新しい商品などもなく、平年並みに落ち着きそうである。
□	家電量販店（本部）	・新型コロナウイルスの影響が、冬に向けて落ち着くことはないともみている。	

□	その他専門店〔酒〕（経営者）	・とにかく時短営業などが終われば少し取り戻せると考えるが、一旦下がったものが伸びてくることは最近なかなかないので、余り期待できない。
□	スナック（経営者）	・まだまだ新型コロナウイルスの感染や国内外の情勢の影響があり、希望のある先行きが見えない。
□	観光型旅館（経営者）	・ワクチンの接種比率が増えることによりGo Toキャンペーンの再開など期待したが、全く先が読めない状況である。
□	旅行代理店（従業員）	・現在の感染者数の増加は1か月以内に収まる方向になるとみているが、新型コロナウイルスの変異株が流入しているという報道があり、2～3か月先は全く読めない。
□	通信会社（職員）	・新型コロナウイルス禍で客のところへの訪問を控えざるを得ないことによる影響は少なからずある。
□	通信会社（営業担当）	・夏のボーナス時期を期待していたが大きな変化はなく、販売量も前年と同様に推移している。
□	通信会社（役員）	・新型コロナウイルス禍では消費者マインドが良い方向に大きく振れるとは考えにくく、今月と変わらず、放送、通信の契約者数は前年同期と同レベルで推移するものと考える。
□	通信会社（役員）	・新しい生活様式の浸透をにらみ、当社の事業内容も変化する必要がある。うまく適合できれば景気は良くなると考えているが、2～3か月ペースで新型コロナウイルスの感染が収束しているとはみられず、大きな変化は見込めない。
□	テーマパーク（役員）	・新型コロナウイルスの感染が収束する方向をなかなか見通せず、緊急事態宣言等も解除になる見込みも薄い。先行きの予約状況も厳しいことから、現状と変わらない状況が続くとみている。
□	住宅販売会社（従業員）	・今までより金額が上がれば契約が難しくなるのは仕方がないが、他社との差別化を明確にして客の囲い込みを行うことと、より付加価値のある商品開発が大切になると考える。
□	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの終息が見えない限り、業績の良い業界と悪い業界の差が激しく、競争状態が続くと考える。
▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・新型コロナウイルスの感染収束にめどが立つまで、悪い状態は続くだろう。
▲	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しても、すぐに活動的にはならず、マイナス基調は継続するとみている。食品を中心に巣籠り需要対策や、お取り寄せなどの企画をしてもパイが小さく、マイナスをカバーできないのが現状である。
▲	スーパー（仕入担当）	・原材料の価格高騰や、製造過程でのクラスター発生による品薄のため、販売量、販売金額共に悪化してくるとみている。
▲	スーパー（店舗管理）	・原材料費の値上げに伴う食品の値上げにより、更に売価を意識した客層がドラッグストア等の低価格販売に流れるとみている。
▲	コンビニ（店長）	・現在の売上向上はまん延防止等重点措置適用中の、昼食をコンビニ弁当にせざるを得ないというやむを得ない選択からくる特別なものである。まん延防止等重点措置の解除、若しくは規制に慣れてしまい、客がふだん同様の動きをすると、以前の売上に戻るとみている。そもそも景気が回復して売上が上がっているのではないので、特需のある今よりは確実に悪化すると考える。週末等、休みのタイミングで必需品以外の販売が低迷している状況からも、景気は相変わらず良くないと考える。
▲	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染はすぐには収まらない。
▲	衣料品専門店（経営者）	・ワクチン接種で極端に景気が回復するとは考えにくく、しばらくは一進一退が続くものとみている。
▲	衣料品専門店（経営者）	・出口がみえない事象について、先行きの不安と恐怖感は増加すると考える。
▲	乗用車販売店（経営者）	・自動車業界では半導体不足の影響がまだ続くとみられ、他業種では新型コロナウイルス禍での行動自粛等による影響で売上減少が大きくなり、景気が悪くなると考える。
▲	乗用車販売店（従業員）	・半導体不足の影響が大きくなってきている。

		乗用車販売店（役員）	・半導体や自動車部品の供給遅れによる生産ラインの停止日数が徐々に増えており、経済活動全般で停滞する傾向がみられる。消費活動においても新型コロナウイルス感染症の感染拡大により厳しい状況が長く続いており、収束の見通しが立たないことでますます下降していくと考える。
	▲	住関連専門店（役員）	・新型コロナウイルスの影響を含めて不透明な部分が多いが、感染拡大が収まらなければ客足は遠のき売上に影響するし、感染拡大が収まり消費が外向きに変わり始めたとしても、客足が遠のき売上に影響する。
	▲	一般レストラン（店長）	・新型コロナウイルスの感染が広まり、終息の気配がない。手の打ちようがない。
	▲	観光型旅館（スタッフ）	・夏休みに入り予約は増加していたが、新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言地域及びまん延防止等重点措置地域が拡大し、新規予約とキャンセルがほぼ同数になってきている。
	▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
	▲	通信会社（店舗統括）	・下降傾向が止まる気がしない。
	▲	パチンコ店（経理）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増減に影響されそうである。
	▲	競輪場（職員）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置によって、場外車券売場が発売中止となっていることから、感染状況が改善しなければ売上増加は見込めない。
	▲	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・現役世代へのワクチン接種も何とか開始されたが、感染拡大の勢いがあるので世間に安心感は全く出てこない。できるだけ早く全世代へのワクチン接種が始まり、安心感が広がることを願っている。
	×	商店街（代表者）	・ワクチン接種で経済活動に少し動きが出るかと期待していたが、変異株の登場で予想は大幅に変わってきている。秋の衆議院選挙でまた客が少なくなるとみられ、この状態が当分続くかと覚悟している。
	×	商店街（代表者）	・市内は感染者数が高止まりで、全国的には感染者数が増加傾向である。ネット通販も今月は横ばいで、特に高額の商品は全く動いていない。
	×	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・金を使わないことに客が慣れてきてしまっているように感じるので、今後客の購買意欲が上がるとは考えられない。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・2～3か月で新型コロナウイルスの感染状況が劇的に解消されるとはみていない。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	・変異株による感染者の急増で先が見えない。
企業 動向 関連  (北陸)	◎	一般機械器具製造業（総務担当）	・2022年前半まで当社製品に対してバックオーダーを抱えており、今後も受注が見込めそうである。
	○	繊維工業（総括）	・全体としては回復基調であるが、自動車用途が半導体不足の影響により先行き不透明になっていることと、世界的な変異株による新型コロナウイルスの感染拡大の影響を懸念している。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	・全国にわたる新型コロナウイルスの感染拡大が今後当面継続する影響で、なかなか本格的な回復には至らないとみている。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合から、変わらないとみている。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・約1年前より右肩上がり受注状況は改善してきているが、東南アジアを中心に新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、自動車メーカーを中心に受注が減速傾向であるため、この先は輸出中心に厳しい状況になるとみている。一方、国内の政治不安についての影響は限定的と考えている。
	□	建設業（経営者）	・現総理は新型コロナウイルス対策に明かりがみえてきたと言ったが、そのように感じる国民は少ないだろう。新型コロナウイルスにおびえる状況が年内に解消する見込みはなく、景気の回復も見込めないと考える。
	□	建設業（役員）	・資材価格の動向が引き続き懸念される状況で、先行きは判断しにくい。
	□	輸送業（管理会計担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、収束の見通しが立っていないことから景気の先行きに不透明感がある。

	□	金融業（融資担当）	・新型コロナウイルス感染者数の急増により多くの都道府県で緊急事態宣言が発出され、経済活動が制限されている。在宅や巣籠り需要は底堅いが、観光や飲食とそれに関連する業種は当面厳しい状況が続く。	
	□	不動産業（経営者）	・現在は法人客からの引き合いや問合せが少ない。個人客からの問合せも今は少ない状況が続いている。	
	□	広告代理店（経営者）	・まん延防止等重点措置の影響が大きく、今後どうなるかみえてこないなど、変化はないと考える。	
	□	司法書士	・一部の会社では、事業承継がうまくいったものやネット販売等の新規事業、新たな子会社設立の動きがあるが、飲食店や小売業ではかなり厳しい状況が続いている。	
	□	税理士（所長）	・新型コロナウイルスの影響が大きい。今後、感染がアジアで落ち着いてくれば、部品も順調に供給され、いろいろな面で輸出の滞りがなくなっていくだろうという期待はある。新型コロナウイルス次第という回答では説明にならないが、新型コロナウイルスに振り回されている。	
	▲	食料品製造業（経営企画）	・当面の受注や販売面に関しては楽観視している一方、原材料や燃料など複数のコストアップ要因に直面しており、採算性の悪化を見込んでいる。	
	▲	通信業（営業）	・新型コロナウイルスの感染者数が今後も増加すれば、景気の先行きは不透明である。現状では良くなる材料が見付けられない。	
	×	金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスの感染者数の増加、まん延防止等重点措置対象地域の拡大で経済への悪材料がそろっている。北陸3県でも感染者数が増えており、県内でも感染状況の悪化で飲食、小売、観光業は関連業種含めて大打撃である。回復するのに相当時間が掛かる。	
雇用 関連  (北陸)	◎	—	—	
	○	人材派遣会社（社員）	・上期から下期への期変わり時期であるとともに、新型コロナウイルス対策のワクチン接種の割合が増加することで安全が担保され、いよいよ本格的に経済が回り出し、求人求職共に少し良くなると考える。	
	○	職業安定所（職員）	・11～12月は、前年同様に新型コロナウイルスの感染状況が一時的に落ち着くとみている。飲食業が少し活気付くと考える。	
	□	人材派遣会社（役員）	・求人数が少ない。求職者の派遣登録も増えない。	
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人意欲のある企業が少ない。	
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	・新型コロナウイルスの終息がイメージできないと、企業の意気が上がらないと考える。	
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県内でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、当地域はまん延防止等重点措置の対象となっている。この期間を経て新規感染者数は減少に転じるのだろうが、ワクチン接種が完了し、さらには治療薬の開発や普及が進まないことには状況の好転は望めないとみている。	
	□	職業安定所（職員）	・ワクチン接種が増加すれば、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少すると言われていたが、現状では感染者数は増加傾向にあり、先行きが不透明なため、新規求人を出し控える事業所が多くなるとみている。	
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・新型コロナウイルスによる感染拡大のなか、予防関連商品や医薬品などの一部を除いて、まだ活発な経済環境には程遠い感じがする。	
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・求人数について、状況が変わる要素が見受けられない。	
		▲	—	—
		×	—	—